

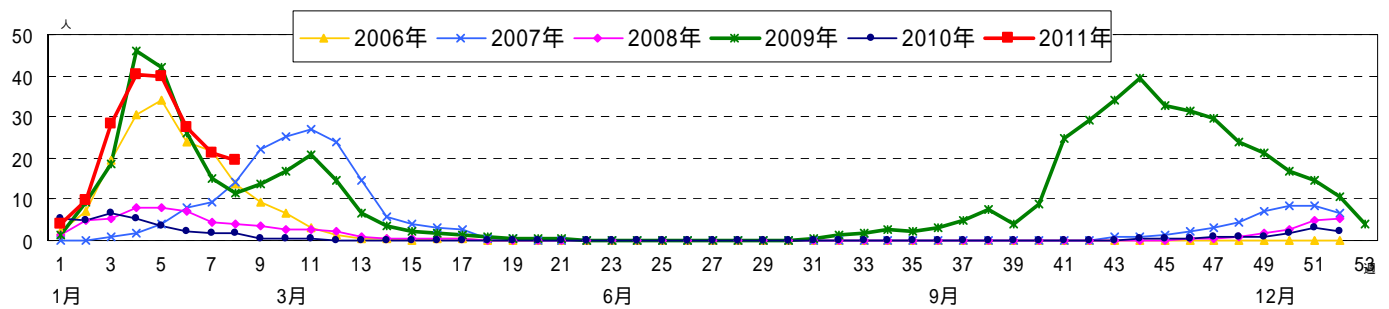
横浜市インフルエンザ流行情報 9 号 (第 8 週)

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

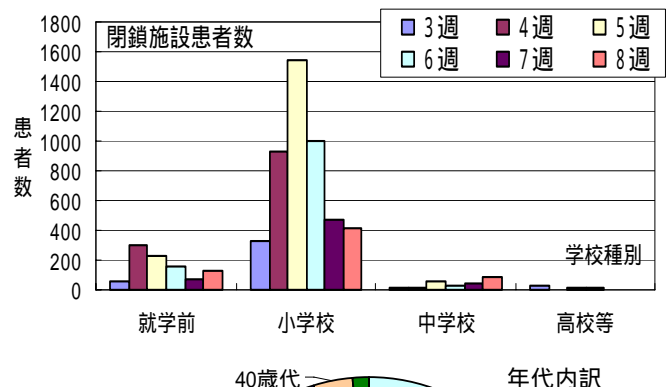
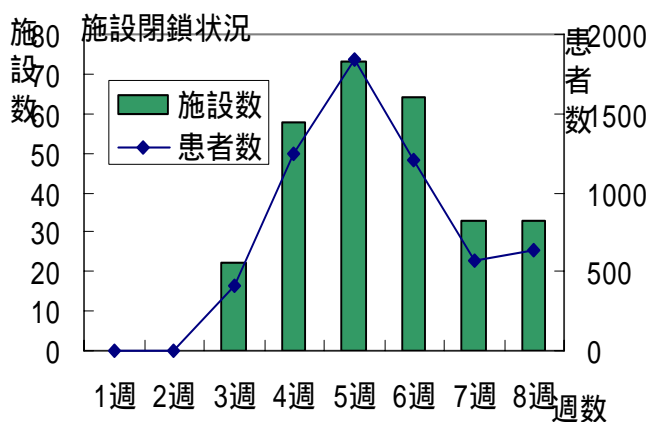
トピックス

- ・ 第 8 週 (2 月 21 日からの週) で、市内の定点あたり 19.34 と前週比の 1 割減程度です。
- ・ 第 8 週では B 型が優勢です。定点医療機関の協力による迅速キットでの結果は、A 型 1029 件、B 型 1384 件で、A 型に代わり B 型が優勢になりました。(市内 6 割が B 型)。
- ・ 施設閉鎖は、第 5 週に 73 施設、患者 1845 人とピークでしたが、第 8 週では 33 施設、患者 630 人でした。
- ・ ワクチンがやや効きにくい B 型が検出されています。市内で B 型は優勢ですので、引き続き感染予防を心がけましょう。

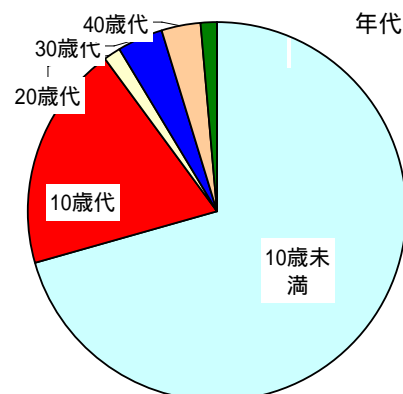
- 1 市内 150 か所 (小児科 91 内科 59) の定点医療機関からの報告で、第 5 週 (12 月 13 日 ~ 19 日) に「流行のめやす」である「定点あたり 1」を超えて、第 4 週に 40.05 とピークとなりましたが、第 8 週 (2 月 21 日 ~) では定点あたり 19.34 と、先週と比較してごく僅かな減少でした。



- 2 施設閉鎖状況: 第 1 週、第 2 週の報告はありませんでしたが、第 5 週 (73 施設、患者 1845 人) まで増加していましたが、第 8 週では 33 施設、632 人でした。施設数は第 7 週と同じですが、患者数で見ると、微増しています。中学校 (36 人 86 人) と就学前施設 (67 人 130 人) の患者数が、先週と比し倍増しています。



- 3 年齢層別内訳: 90%以上が 20 歳未満と、若年者の報告割合が漸増しています。50 歳以上は 1.5%とごく僅かでした。



4 行政区別状況:行政区別状況:西区、栄区、瀬谷区は微増していますが、他の 15 区は先週より減少しています。定点あたり「30」を超えたのは、緑区 34.43、都筑区 31.00 の2区のみでした。

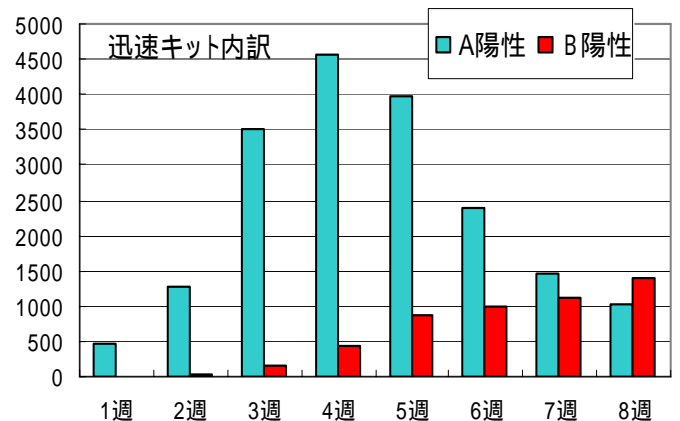
鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢	港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷
7.56	27.1	14	15.8	20.1	18.1	10.3	15.6	23.4	12.9	25.3	34.4	16.8	31	14.8	16.4	26.6	16.7

5 迅速キット内訳:現時点での市内流行状況は、第8週ではA型 1029件、B型 1384件と、B型が57%と、A型を上回りました。

B型の割合の多い区は、磯子区 77%、中区 76%、都筑区 71%の3区が、7割を超えています。

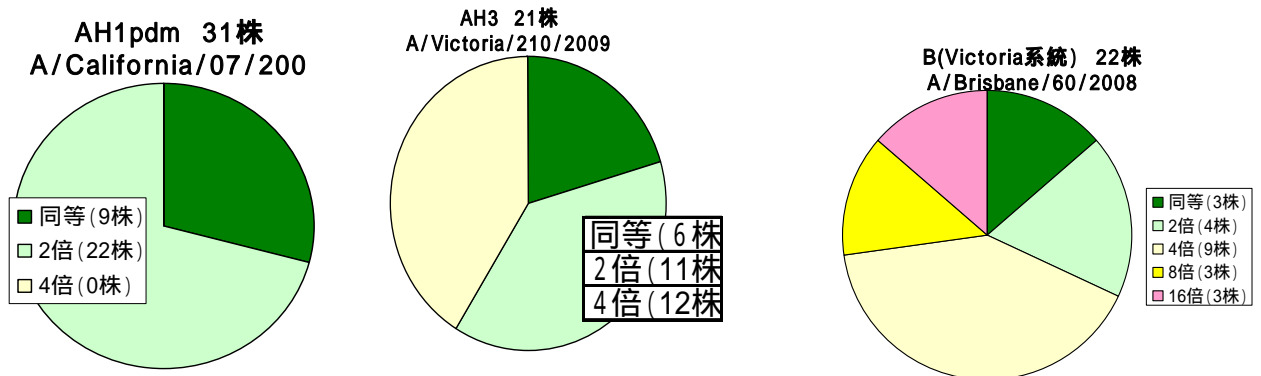
B型の割合の少ない区は、金沢区 19%、瀬谷区 27%、泉区 41%、西区 44%、戸塚区 46%の5区です。

B型は、実際の報告数も増えています。春先のB型の流行が懸念されます。

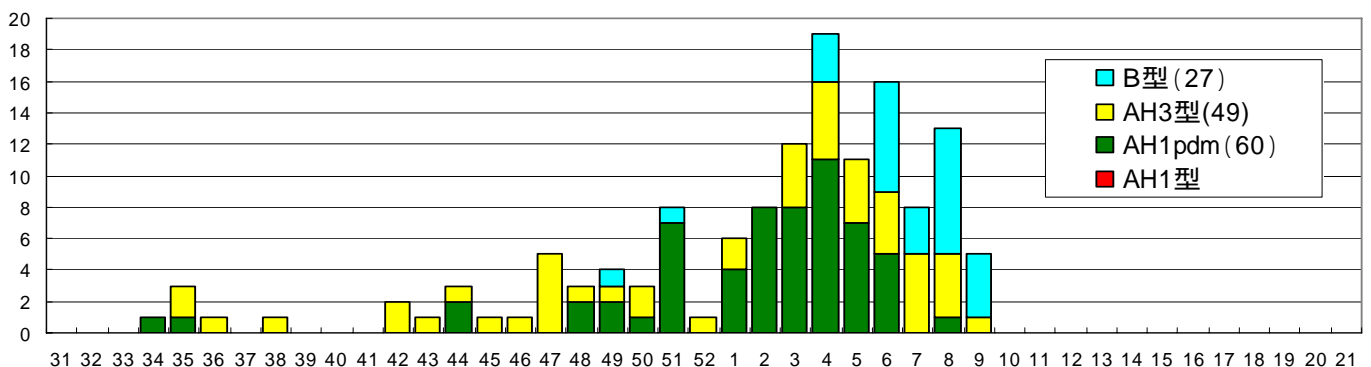


6 ワクチンに対するHI価:

A新型は、ワクチン株とほぼ同等と思われませんが、A香港は、ややワクチン株からの変異が示唆されます(6株に4倍が認められている)。B型は、3株に16倍、3株に8倍と、更にワクチン株からの変異が示唆され、今後のワクチンの有効性に注意が必要です。



7 病原体定点からの病原体検出状況:過去3週(第7~9週)では、A新型が1件、A香港が10件、B型が15件と、病原体定点からの検出状況もB型が優勢となっています。



お問い合わせ先

横浜市健康福祉局健康安全課 045 (671) 2463
 横浜市衛生研究所 検査研究課ウイルス担当 045 (754) 9804
 横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 045 (754) 9815